

5. 予算および主要事業

水産試験場

事業名	平成20年度予算(当初)
水産試験場運営費	24,599千円
試験研究調査費	10,570
(アユの冷水病対策研究費)	(1,500)
(琵琶湖生態系修復総合対策研究費)	(4,775)
(琵琶湖沿岸環境変動の影響調査研究費)	(1,000)
(増養殖技術研究費)	(600)
(漁況予報調査研究費)	(1,800)
(漁場環境調査研究費)	(895)
水産技術普及指導費	0
養鱒場運営費	4,819
養鱒事業費	79,900
調査指導費	1,700
職員費	224,880
計	346,468千円

水産課計上分

事業名	平成20年度予算(当初)
水産基盤整備事業費	1,347千円
(漁場環境保全創造事業)	(1,347)
資源管理型漁業推進総合対策事業費	1,712
水産有害生物対策事業費	3,000
(オオクチバス等外来魚撲滅対策研究費)	(3,000)
養殖漁業振興事業費	5,000
流通加工対策費	1,000
(冷水病保菌検査の促進)	(1,000)
ホンモロコ資源緊急回復対策事業	4,360
湖辺のにぎわい復活事業	10,000
(湖沼の漁場改善技術開発事業)	(10,000)
水産業温暖化対策事業	6,600
(水温上昇が琵琶湖の水産生物に及ぼす影響の解明)	(6,600)
計	33,019千円

琵琶湖再生課計上分

事業名	平成20年度予算(当初)
早崎内湖再生検討事業	737千円

平成 2 0 年 度 主 要 事 業 一 覧

事 業 名	事 業 概 要
アユ冷水病対策研究	天然水域や養殖場においてアユに多大なる被害を与えている冷水病に対する予防・治療対策、種苗の除菌技術の開発。 ○冷水病菌のアユ体内での動態研究 ○冷水病に対する抗病性付与技術開発 ○冷水病菌拡散防止技術開発 ○浸漬ワクチンの開発試験
琵琶湖生態系修復総合対策研究	琵琶湖漁業の生産基盤である琵琶湖の多様で健全な生態系を回復させるための調査研究。 ○生物多様性モニタリング調査 ○環境保全型栽培技術効率化研究 ○沿岸帯の魚類生産機能修復再生研究 ○栽培対象魚の遺伝的多様性研究
琵琶湖沿岸環境変動の影響調査研究	漁網の汚れ、プランクトンの異常繁殖、水草の増加等著しい変化が生じている漁場環境の実態の把握とその変動原因の解明。 ○漁場環境の悪化実態把握調査 ○沿岸環境変化の漁場環境への影響把握
漁況予報調査研究	アユの資源水準を的確に把握し、精度の高い漁況予報を行うとともに、各調査結果は、すみやかにホームページに掲載し、関係機関・漁業団体に提供する。 ○産卵状況調査 ○ヒウオ生息状況調査 ○湖中アユ魚群分布調査
漁場環境調査研究	琵琶湖定点定期観測により漁場環境の動向を定期的に把握するとともに、主要漁場（琵琶湖、内湖、河川）や養殖場等における突発的な魚介類の異常斃死事故等についての調査および試験。 ○琵琶湖定点定期観測調査
特産マス類資源の保全と活用に関する調査・研究	本県の特徴を活かし、河川生態系に配慮した在来マス類資源の増殖技術や漁場としての適正利用技術の開発。ビワマスの地域特産種としての開発。 ○ビワマスの漁業に関する調査・研究 ○ビワマス養殖事業化研究
資源管理型漁業推進総合対策事業*	資源回復計画実施の進行管理のための調査研究の実施。 ○ニゴロブナ資源回復計画推進調査 ○セタシジミ資源回復計画推進調査
オオクチバス等外来魚撲滅対策研究*	オオクチバスの効率的繁殖抑制、捕獲技術開発及び外来魚生息状況把握技術の検討。 ○効果的繁殖抑制技術の開発 ○内湖での在来魚回復実証試験 ○蝸集水域での駆除技術開発
湖辺のにぎわい復活事業*	琵琶湖南湖を実験漁場として、湖辺や湖底の水産資源生産力の向上を図る漁場改善技術を開発し、保全・修復技術のガイドラインを作成。 ○漁場の再生と維持を両立させる新技術の実証 ○漁業資源涵養に資する生態系の復元に係る新技術の実証
ホンモロコ資源緊急回復対策事業*	著しく減少したホンモロコ資源を回復させるため、ふ化仔魚または発眼卵の放流技術開発を実証的規模で実施。 ○天然親魚生産 ○ふ化仔魚（発眼卵）大量生産・放流試験・放流効果調査
水産業温暖化対策事業*	温暖化による水温上昇や琵琶湖水循環の滞りが重要魚種の産卵・繁殖、成長や餌料生物等に及ぼす影響調査。 ○湖産アユに及ぼす影響調査 ○ホンモロコに及ぼす影響調査 ○ビワマスに及ぼす影響調査 ○イサザに及ぼす影響調査

注) *は本課予算